

美の里づくり審査会特別賞

はしかたに
掬鹿谷土地改良区（兵庫県旧東条町（現加東市））

はしかの里は「花いっぱい夢いっぱい」

旧東条町（平成18年3月に加東市へ合併）は、兵庫県の南東部、一級河川加古川の支川東条川の上中流域に位置し、町を東西に中国自動車道が横断しており、神戸、大阪へは車で約1時間の距離です。

また、瀬戸内式気候で降水量が少ないため、農業

用水の確保を目的に、農水省が戦後初めて手がけたコンクリートダムの鴨川ダムがあります。現在でも東条湖として親しまれ、県立自然公園内の一大レジャー基地ともなっています。

掬鹿谷集落は、町の中央部に位置し、町内で最後



まで残った未整備農地を、兼業化、高齢化による後継者不足等の課題に対処するために「集落内の農地は集落で守っていく」ことを前提として、平成12年に県営圃場整備事業(担い手育成型)の採択を受け、整備を進めてきました。

これと歩調をあわせて、掬鹿谷土地改良区が担い手育成、景観保全、地域づくりを3つの柱を掲げ活動を強化してきました。

1. 参画 大型機械で営農を行うものの、様々な場面で参加できる機会を提供する
2. 創造 農村景観、農村環境は圃場整備後も保全し、創造する
3. 交流 集落内世代交流と都市農村交流を進める

担い手である「はしかの里営農組合」は、土地改良区と同一構成員で組織する、として平成15年3月に同組合を設立、営農の主体として活動しています。

奈良時代に造られた掬鹿谷廃寺跡の保護盛土のため約3万m³の建設残土を搬入したことにより長大法面が出現、センチピートグラスにより景観を確保し、維持管理の軽減のため集落総出で定植作業を行っています。17年度には農道路肩にイワダレソウの植栽にも取り組みました。

また当集落の畦畔にはいたるところに彼岸花が咲いていたので、原風景と位置付け、圃場整備工事の



始まる前に球根を採取し、完成後の法面に地元小学生の参加を得て定植しました。また転作田を地域交流の場とするために、コスモス畑を沿道に50a設置し、これを契機にコスモス祭りを開催、世代間交流を進めました。

当集落の水源は、ため池からの区域と鴨川からの井堰掛かりの区域とに二分されており、井堰掛かりの区域では地元小学校の協力を得て、ビオトープ水路を整備しました。今ではたくさんのドジョウ、メダカがみられ、毎年3月に水路清掃を行っています。

「山田錦の学校」は、整備田を活用し、灘五郎のまち(西宮市、宝塚市)の小学生を6月と10月に掬鹿谷集落に招き、酒米への理解と農村のすばらしさを体感する活動を行っています。これを契機に地元米のおにぎりが美味しかったとお米の注文が入るようになりました。

■講評

圃場整備後の集落営農の実施や、圃場整備にあわせて地域内外の子供達との交流や、花を植えるなどの環境整備活動が盛んに行われています。まさに地域主体の活動で地域づくりを実践し、景観保全につながっている取り組みが高く評価されました。

